

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600414		
法人名	ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホーム サンシティとよだ (1階、2階 ユニット合同)		
所在地	静岡県磐田市豊田35番地		
自己評価作成日	平成25年1月21日	評価結果市町村受理日	平成25年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://hp?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=227660

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成25年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階では南の広場でくつろげるところがあり、ピアノを弾いたり本を読んだりして、家に居るような雰囲気が出ています。入居者様と一緒に洗濯物を干したり、たたんだりして出来る事は一緒に行っています。ホールでは歌等のDVDを流して聞いたり歌ったりしています。
2階ではバズルをしり絵本を読んだりしてのんびり過ごしています。時にはカラオケを流して聞いたり、歌たりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

磐田原台地の裾に広がる田園風景の中に事業所があります。太陽が降り注ぐ居間にはピアノが置かれ、保育園の先生であった利用者がピアノ弾くと、不穏な利用者が穏やかになる姿がありました。こまめに清掃を行い常に快適で清潔な環境を整えているため、ここ数年は利用者が風邪をひくこともなく、皆元気で過ごしていて家族からもお褒めの言葉をもらっています。自由な生活を支援していて、起床、食事などを時間でおこなわず、利用者本位としています。また、寝付かせに来てくれる家族や、さみしいという利用者にはベッドに寄り添い、歌を唄ったりして見守る職員の、心の大きさが漂う事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サンシティとよだでは「笑顔であいさつ」を目に付くところに掲示し実践に心掛けています。また、理念も各階等に掲示しています。	どんな事業所にしていきたいかを皆で話し合っ作り上げた理念「笑顔であいさつ」は、1日を明るく楽しく過ごせるような合言葉として浸透しています。ケアのポイント9ヶ条があり、新人研修だけでなく職員も振り返ることで徹底が図られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩に出かけた時にはあいさつを交わし、奉仕作業、防災訓練への参加をしています。	自治会に加入していて回覧板も廻ってきており、現自治会長だけでなく前自治会長からも頻回な声掛けがあります。地域の奉仕作業は年3~4回あり、可能な限り参加しています。地域の祭りでは毎年事業所に立ち寄り、踊りの披露があります。高校生の体験実習は定例化しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症についてお話をしています。 また、祭典時等に開放し中を見られるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見を出していただきサービスの向上に努めています。	家族、自治会長、民生委員、自主防災、時には利用者の参加があり、新たに向いのガス屋さんも加わって、多彩なメンバーで隔月開催しています。検食の食事会をおこなうなど理解を深めてもらえる工夫がみられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時協力していただいています。 市の会合、相談の話し合い等意見を聞いて取り組んでいます。	運営推進会議には、市職員、地域包括支援センター職員が毎回参加しています。担当者だけでなく前担当者とも気軽に話ができる関係ができています。包括主催のケアマネージャー会議に出席して各種の情報交換を行い、市の事業者連絡協議会も参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常にドアは全て開放しており、見守りで事故のないようにしています。	身体拘束ゼロ宣言をしていて玄関施錠はありません。ベッド柵に関しての同意書もあり、書面管理が成されていることを視認しました。言葉遣いには気をつけていて、急を要する時にはスピーチロック的な言葉も出ることがあるので都度話し合っって対応を考えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対して優しい言葉かけに努めています。 言葉づかいが気になったときはお互い気が付いたときに注意しあっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところありませんがもしあれば活用するようにして生きたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度説明を行っています。また、変更のあるときは説明をし、同意書をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員に入っていたり入居者の話を聞いていただいています。また玄関に意見箱を設置し意見のあるときにはいつでも記入して対応しています。	家族が運営推進会議に参加しており、また毎月「サンシティとよだ」を発行し、相互理解に努めています。家族意見は面会時にも求めています。利用者の穏やかさに安心しているためか意見はあまりありません。初めて見た親の柔和な顔に感動したという家族のエピソードもあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度聞いて対応しています。	ユニット会議では行事の提案などにおいてよくできています。職員に変調が見られるときには、随時個人面談を行っています。管理者には個人的な悩みも打ち明けられていて、風通しの良い職場環境が覗えます。外部研修の参加に意欲的な職員のサポートにも取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各事業所に行き、管理者・職員の声を聞いたたり、ミーティングに参加したりして職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会をつくり、介護に対する知識を深めています。職員同士介護の質を高めるため、日々協力を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括会議に参加し、他の事業所のケアマネ等や近くのグループホームの方と意見交換をしたり、同じ会社のほかの事業所の職員と交流を図っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	来所して施設の中を見て頂き入居する前に家族・本人と話し合い安心して入居していただくようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に困っていること等を話し合い協力し合っています。面会時には必ず声かけをするように心掛けています。 外出のときも外出先での様子を聞いています。 また、入浴や入床時にいつも協力して下さる家族もいます		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居するとき家族が来所話し合っている行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	新しく入所した時は特に職員とのかかわりを深くして慣れて頂き互いに尊敬し合い顔なじみの関係をつくっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が出来る事に関しては依頼をして家族と一緒に受診、外出をしたりしていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の人たちにも面会に来ていただいています。	家族、友人の面会が多くあり、年末年始には外泊したり一時帰宅する利用者もいます。家族と美容院、お墓などへ連れ添って出掛けています。 ピアノを弾く元保育園の先生がいたり、新聞を読んでいる利用者など、趣味や習慣だったことを継続しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクを一緒に行うようにしています。また一人である入居者には随時声かけをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居する時には相談・支援をするようにしています。利用者にあったサービスを検討し、紹介しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望は出来る限り聞くようにしています。	入浴中のゆったりした中で、思いが聞けています。思いや気付きは申し送りノートに記入し、日勤が黒、夜勤が赤と色分けして、介護日誌に抽出して収束し、ケア見直しのベースにしています。担当制を敷かず、全員で注意深く見守り、管理者に収束し情報を一元化しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と話をしていく中で聞いています。また家族にも話を聞いて把握に努めています。今まで使用していた愛着のあるものは持ってきていただき使用しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合わせた過ごし方を心がけています。変わった事があれば申し送りノートで連絡をしたり、その都度職員同士が報告しあって状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアミーティング等を行いその時点での問題点を検討し、介護計画を作成しています。また、出勤している職員で話し合いながらその都度検討しています。	アセスメントと合わせて半年ごとにモニタリングを行っています。ユニット会議では、申し送りノートからポイントを絞って話し合い、計画作成担当者がプランを作成しています。殆どの家族が毎週面会にきているため、家族の意向も良く聞けており、プランに反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りノートに記録し問題を話し合い介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	話し合いながらその時々に行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は回覧板などで知りますが、地区の祭典以外の参加は現在行っていません。これから参加できるものには参加して行きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎朝バイタルチェックを行い異常があればすぐにかかりつけ医に相談し指示を仰いでいます。急変時等の緊急受診(定期受診以外)のときは家族に連絡しています。	協力医はありますが、殆どが従来のかかりつけ医を継続していて、職員が付き添っています。週1回訪問の看護師には随時相談にのってもらえ、安心に繋がっています。受診にはバイタル表のコピーを持参し、結果と薬情については「通院記録」に記載しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師に様子を看てもらっています。わからない事があるときには電話連絡し、指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	時々面会に行き状態を見てきています。その時に看護師などに状態を聞くようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化時、家族との話し合いをしています。医療行為が生じない限り生活できるように支援しています。	看取りの実績はありませんが、出来ること出来ないことを家族に理解してもらっています。現在重度化の利用者がおり、経口摂取ができなくなったら、医療機関とも相談のうえ転所などもあるとの意向をあらためて家族に伝え、今後の対応を話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを用意し定期的に訓練を行っています。看護師やかかりつけ医に連絡し指示を仰いでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行いどのように避難させたらよいかその都度話し合いを行っています。また地域の方も地域防災訓練時にはホームを廻っていただいています。自治会に協力していただくようお願いしてあります。津波、火災等によって避難場所を変えています。	年2回の防災訓練があり、地震の際は2階へ避難することを決めています。現在夜間想定での訓練はしていません。地域の訓練には参加していて、事業所内訓練に地域の協力を運営推進会議などをお願いしています。備蓄は3日分あり、担架、ヘルメットを常備し有事に備えています。	職員は配置が希薄となる夜間想定での訓練がまだですので、早い時期に夜間想定での訓練を行うことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いは親しみをこめて行うようにしています。	呼称はさん付を基本していますが、ニックネームなどにしか反応しない利用者には、利用者の要望で親しみのある呼び方をすることもあります。介護記録などのファイルは棚に入れて外部の目に触れないように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る事は行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示の出来る人には希望に沿うようにしています。 一人一人居室で過ごしたり、ホールのソファで過ごしたり自由に過ごせるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えの選択等できる方には一緒に行ったり自分で行ったりしていただいています。 散髪も2ヶ月に1度施設に来ていただき行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものの訴えには沿うようにしています。嫌いなものに対しては他の食べれるものと変える等対応しています。厨房で一緒にはできませんが洗い物を拭いてもらうなど出来る事はしていただいています。季節の野菜の下ごしらえなど出来る利用者には手伝ってもらっています。	食事は調理スタッフが週3日作り、他の日は職員が作って提供しています。嗜好を聞いて献立に活かしていて、食材は随時買い出しに行き鮮度を重視していて、利用者が同行することもあります。おやつは週2~3回は手作り、ホットプレートでお好み焼きなど手作りしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い季節の物を用意し摂取量は表にしてわかるようにしています。 状態の変化に応じて申し送りをし脱水などにならないように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけし、自分でできる人には自分で行ってもらっています。出来ない人には口腔ケアを行なっています。出来る人も時々お手伝いをし、清潔を保つよう心掛けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分でトイレに行けない方には訴えがあるときにはその都度、誘導・介助を行っています。中々訴えの無い時には時間を見計らって声かけをしています。また行動等をみてパターンを知り誘導・介助を行っています。	排泄チェックシートで把握し、声掛け誘導で失敗を防ぐ取り組みをしていません。布パンツでも過ごせていても利用者の希望で紙パンツを使用するなど、利用者に合わせた支援をしています。夜間もほとんどの場合、睡眠を優先しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表で排便の有無を確認し、水分補給など予防に努めています。また医療機関と連携をとり下剤の服用をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理に入浴させないようにしています。入浴を希望する人には出来るだけ入浴できるよう対応しています。また入浴時は1対1になるので会話を楽しんだりしています。	1日おきの入浴が叶っていて、毎日入りたいという希望や時間の変更も対応できます。毎日お茶がらを入れていて、1対1の介助でゆったり入浴できており、入浴の手伝いに駆けつけてくれる家族もいます。足拭きマットは個別に用意し、感染症予防にも配慮があります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調をみて本人の希望に沿うようにしています。覚醒している方には声かけをしたり、場合によってはそっと見守るなど様子を見て判断するよう心掛けています。さみしいという方にはベッドに寄り添い歌を歌ったりして見守っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録や申し送りノート等で薬が変わったときなどはすぐにわかるようにしています。また薬の説明書をいつでも見られるところに置き、常に確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各月ごと職員に利用者にな何をしたいか聞いたりして行事を決めていきます。また季節ごとに絵を描いたり塗り絵をしたりして、入居者とスタッフと一緒に掲示物を作成したりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や美容院など希望があれば時間を見計らって行っています。また家族にも相談し、家族の方と一緒に出かけたりしています。	日課となる散歩は川沿いのコースがあり、亀、鯉、すっぽん、ナマズなどを眺めて楽しんでいます。年2~3回行く回転ずしでは、興奮して車椅子の利用者も自立歩行してしまうほどの人気で、「今度いつ行く?」の声が多く挙がっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要なものは入居者と一緒はこちらで預かっている預かり金で買い物に行きます。自分で所持できる人には持っている人もいますが、ほとんど預かっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときには行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ブラインドにて光の調節をしています。夜間のトイレは常に電気をつけてあります。ホールには季節の花を飾ったり、絵を飾ったりしています。	広い廊下と光が降り注ぐ居間にはピアノがあります。消毒液で除菌し、また、清掃も徹底して清潔が保たれているため、風邪ひきも殆どないとのことです。ソファーにはいつも利用者の姿があり、壁には職員と一緒に作成した季節の展示品が並び、一つのインテリアとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の好きな時にソファーに座ったり、居室で休んだり自由に出来るようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家よりソファーを持って来たり、使い慣れた椅子を持って来たりして家族もそれを利用してくつろいで利用者として過ごしています。家で使っていたものを持ってきていただき使用しています。	カーテン、エアコン、大き目のクローゼットとニッチには棚が備え付けられています。棚には写真、ぬいぐるみなどが置かれ安らぎの空間となっていることが覗えます。さみしいという人にはベッドに寄り添い、歌を唄ったりして職員が見守る日もあり、また毎日寝かしつけに来る家族もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・廊下には手すりをつけています。またトイレ・各居室には分かるように名前を張ったりしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サンシティとよだでは「笑顔であいさつ」を目に付くところに掲示し実践に心掛けています。また、理念も各階等に掲示しています。	どんな事業所にしていきたいかを皆で話し合っ作り上げた理念「笑顔であいさつ」は、1日を明るく楽しく過ごせるような合言葉として浸透しています。ケアのポイント9ヶ条があり、新人研修だけでなく職員も振り返ることで徹底が図られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩に出かけた時にはあいさつを交わし、奉仕作業、防災訓練への参加をしています。	自治会に加入していて回覧板も廻ってきており、現自治会長だけでなく前自治会長からも頻回な声掛けがあります。地域の奉仕作業は年3~4回あり、可能な限り参加しています。地域の祭りでは毎年事業所に立ち寄り、踊りの披露があります。高校生の体験実習は定例化しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症についてお話をしています。 また、祭典時等に開放し中を見られるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見を出していただきサービスの向上に努めています。	家族、自治会長、民生委員、自主防災、時には利用者の参加があり、新たに向いのガス屋さんも加わって、多彩なメンバーで隔月開催しています。検食の食事会をおこなうなど理解を深めてもらえる工夫がみられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時協力していただいています。 市の会合、相談の話し合い等意見を聞いて取り組んでいます。	運営推進会議には、市職員、地域包括支援センター職員が毎回参加しています。担当者だけでなく前担当者とも気軽に話ができる関係ができています。包括主催のケアマネージャー会議に出席して各種の情報交換を行い、市の事業者連絡協議会も参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常にドアは全て開放しており、見守りで事故のないようにしています。 現在、1件ベッド柵を必要としている利用者にはご家族に同意書をいただいています。 階段を気を付けて見守っています。	身体拘束ゼロ宣言をしていて玄関施錠はありません。ベッド柵に関しての同意書もあり、書面管理が成されていることを視認しました。言葉遣いには気をつけていて、急を要する時にはスピーチロック的な言葉も出ることがあるので都度話し合っって対応を考えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対して優しい言葉かけに努めています。 言葉づかいが気になったときはお互い気が付いたときに注意しあっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところありませんがもしあれば活用するようにして生きたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度説明を行っています。また、変更のあるときは説明をし、同意書をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員に入っていたり入居者の話を聞いていただいています。また玄関に意見箱を設置し意見のあるときにはいつでも記入して対応しています。	家族が運営推進会議に参加しており、また毎月「サンシティとよだ」を発行し、相互理解に努めています。家族意見は面会時にも求めています。利用者の穏やかさに安心しているためか意見はあまりありません。初めて見た親の柔和な顔に感動したという家族のエピソードもあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度聞いて対応しています。	ユニット会議では行事の提案などにおいてよくできています。職員に変調が見られるときには、随時個人面談を行っています。管理者には個人的な悩みも打ち明けられていて、風通しの良い職場環境が覗えます。外部研修の参加に意欲的な職員のサポートにも取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各事業所に行き、管理者・職員の声を聞いたたり、ミーティングに参加したりして職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会をつくり、介護に対する知識を深めています。職員同士介護の質を高めるため、日々協力を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括会議に参加し、他の事業所のケアマネ等や近くのグループホームの方と意見交換をしたり、同じ会社のほかの事業所の職員と交流を図っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	来訪して施設の中を見て頂き入居する前に家族・本人と話し合い安心して入居していただくようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に困っていること等を話し合い協力し合っています。面会時には必ず声かけをするように心掛けています。 外出のときも外出先での様子を聞いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居するとき家族が来所話し合っている様子です。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	新しく入所した時は特に職員とのかかわりを深くして慣れて頂き互いに尊敬し合い顔なじみの関係をつくっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が出来る事に関しては依頼をして家族と一緒に受診、外出をしたりしていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の人たちにも面会に来ていただいています。	家族、友人の面会が多くあり、年末年始には外泊したり一時帰宅する利用者もいます。家族と美容院、お墓などへ連れ添って出掛けています。 ピアノを弾く元保育園の先生がいたり、新聞を読んでいる利用者など、趣味や習慣だったことを継続しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクを一緒に行うようにしています。また一人である入居者には随時声かけをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居する時には相談・支援をするようにしています。利用者にあったサービスを検討し、紹介しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望は出来る限り聞くようにしています。	入浴中のゆったりした中で、思いが聞けています。思いや気付きは申し送りノートに記入し、日勤が黒、夜勤が赤と色分けして、介護日誌に抽出して収束し、ケア見直しのベースにしています。担当制を敷かず、全員で注意深く見守り、管理者に収束し情報を一元化しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と話をしていく中で聞いています。また家族にも話を聞いて把握に努めています。今まで使用していた愛着のあるものは持ってきていただき使用しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合わせた過ごし方を心がけています。変わった事があれば申し送りノートで連絡をしたり、その都度職員同士が報告しあって状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアミーティング等を行いその時点での問題点を検討し、介護計画を作成しています。また、出勤している職員で話し合いながらその都度検討しています。	アセスメントと合わせて半年ごとにモニタリングを行っています。ユニット会議では、申し送りノートからポイントを絞って話し合い、計画作成担当者がプランを作成しています。殆どの家族が毎週面会にきているため、家族の意向も良く聞けており、プランに反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りノートに記録し問題を話し合い介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	話し合いながらその時々に行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は回覧板などで知りますが、地区の祭典以外の参加は現在行っていません。これから参加できるものには参加して行きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎朝バイタルチェックを行い異常があればすぐにかかりつけ医に相談し指示を仰いでいます。急変時等の緊急受診(定期受診以外)のときは家族に連絡しています。	協力医はありますが、殆どが従来のかかりつけ医を継続していて、職員が付き添っています。週1回訪問の看護師には随時相談にのってもらえ、安心に繋がっています。受診にはバイタル表のコピーを持参し、結果と薬情については「通院記録」に記載しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師の様子を見てもらっています。わからない事があるときには電話連絡し、指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	時々面会に行き状態を見てきています。その時に看護師などに状態を聞くようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化時、家族との話し合いをしています。医療行為が生じない限り生活できるように支援しています。	看取りの実績はありませんが、出来ること出来ないことを家族に理解してもらっています。現在重度化の利用者がおり、経口摂取ができなくなったら、医療機関とも相談のうえ転所などもあるとの意向をあらかじめ家族に伝え、今後の対応を話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを用意し定期的に訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行いどのように避難させたらよいかその都度話し合いを行っています。また地域の方も地域防災訓練時にはホームを廻っていただいています。自治会に協力していただくようお願いしてあります。津波、火災等によって避難場所を変えています。	年2回の防災訓練があり、地震の際は2階へ避難することを決めています。現在夜間想定での訓練はしていません。地域の訓練には参加していて、事業所内訓練に地域の協力を運営推進会議などをお願いしています。備蓄は3日分あり、担架、ヘルメットを常備し有事に備えています。	職員は配置が希薄となる夜間想定での訓練がまだですので、早い時期に夜間想定での訓練を行うことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いは親しみをこめて行うようにしています。	呼称はさん付を基本していますが、ニックネームなどにしか反応しない利用者には、利用者の要望で親しみのある呼び方をすることもあります。介護記録などのファイルは棚に入れて外部の目に触れないように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る事は行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示の出来る人には希望に沿うようにしています。 一人一人居室で過ごしたり、ホールのソファで過ごしたり自由に過ごせるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えの選択等できる方には一緒に行ったり自分で行ったりしていただいています。 散髪も2ヶ月に1度施設に来ていただき行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものの訴えには沿うようになっています。嫌いなものに対しては他の食べれるものと変える等対応しています。 厨房で一緒にはできませんが洗い物を拭いてもらうなど出来る事はしていただいています。 季節の野菜の下ごしらえなど出来る利用者	食事は調理スタッフが週3日作り、他の日は職員が作って提供しています。嗜好を聞いて献立に活かしていて、食材は随時買い出しに行き鮮度を重視していて、利用者が同行することもあります。おやつは週2~3回は手作りで、ホットプレートでお好み焼きなど手作りにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い季節の物を用意し摂取量は表にしてわかるようにしています。 状態の変化に応じて申し送りをし脱水などにならないように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけし、自分でできる人には自分で行ってもらっています。出来ない人には口腔ケアを行なっています。出来る人も時々お手伝いをし、清潔を保つよう心掛けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分でトイレに行けない方には訴えがあるときにはその都度、誘導・介助を行っています。中々訴えの無い時には時間を見計らって声かけをしています。また行動等をみてパターンを知り誘導・介助を行っています。	排泄チェックシートで把握し、声掛け誘導で失敗を防ぐ取り組みをしていません。布パンツでも過ごせていても利用者の希望で紙パンツを使用するなど、利用者に合わせた支援をしています。夜間もほとんどの場合、睡眠を優先しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表で排便の有無を確認し、水分補給など予防に努めています。また医療機関と連携をとり下剤の服用をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理に入浴させないようにしています。入浴を希望する人には出来るだけ入浴できるよう対応しています。また入浴時は1対1になるので会話を楽しんだりしています。	1日おきの入浴が叶っていて、毎日入りたいという希望や時間の変更も対応できます。毎日お茶がらを入れていて、1対1の介助でゆったり入浴できており、入浴の手伝いに駆けつけてくれる家族もいます。足拭きマットは個別に用意し、感染症予防にも配慮があります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調をみて本人の希望に沿うようにしています。覚醒している方には声かけをしたり、場合によってはそっと見守るなど様子を見て判断するよう心掛けています。さみしいという方にはベッドに寄り添い歌を歌ったりして見守っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録や申し送りノート等で薬が変わったときなどはすぐにわかるようにしています。また薬の説明書をいつでも見られるところに置き、常に確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各月ごと職員に利用者にな何をしたいか聞いたりして行事を決めていきます。また季節ごとに絵を描いたり塗り絵をしたりして、入居者とスタッフと一緒に掲示物を作成したりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や美容院など希望があれば時間を見計らって行っています。また家族にも相談し、家族の方と一緒に出かけたりしています。	日課となる散歩は川沿いのコースがあり、亀、鯉、すっぽん、ナマズなどを眺めて楽しんでいきます。年2~3回行く回転ずしでは、興奮して車椅子の利用者も自立歩行してしまうほどの人気で、「今度いつ行く?」の声が多く挙がっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要なものは入居者と一緒はこちらで預かっている預かり金で買い物に行きます。自分で所持できる人には持っている人もいますが、ほとんど預かっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときには行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ブラインドにて光の調節をしています。夜間のトイレは常に電気をつけてあります。ホールには季節の花を飾ったり、絵を飾ったりしています。	広い廊下と光が降り注ぐ居間にはピアノがあります。消毒液で除菌し、また、清掃も徹底して清潔が保たれているため、風邪ひきも殆どないとのことです。ソファーにはいつも利用者の姿があり、壁には職員と一緒に作成した季節の展示品が並び、一つのインテリアとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の好きな時にソファーに座ったり、居室で休んだり自由に出来るようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家よりソファーを持って来たり、使い慣れた椅子を持って来たりして家族もそれを利用してくつろいで利用者として過ごしています。家で使っていたものを持ってきていただき使用しています。	カーテン、エアコン、大き目のクローゼットとニッチには棚が備え付けられています。棚には写真、ぬいぐるみなどが置かれ安らぎの空間となっていることが覗えます。さみしいという人にはベッドに寄り添い、歌を唄ったりして職員が見守る日もあり、また毎日寝かしつけに来る家族もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・廊下には手すりをつけています。またトイレ・各居室には分かるように名前を張ったりしています。		